



慶應義塾大学ビジネス・スクール

エスケー重工株式会社

5

—働き方改革プロジェクト—

はじめに

10

本ケースは、本社総合企画課総括係長という重責ポストに配属された三上が、社内の働き方検討チームにアサインされることから始まる。

この検討チームは、非生産的だと思われる社内の働き方の分析と、それに対する提言、そしてこの提言を実行する段取りまでをとりまとめ、最終的に担当常務にプレゼンを行うことになっている。

三上は社員の働き方にまつわるエスケー重工の外部・内部の環境分析を行ったうえで、過去の経験を振り返りながら、社内の非生産的な働き方の要素が現れやすい作業プロセスとして最終的に社長の講演資料作成プロセスに行きつく。

15

その後、当該内容の妥当性についてインタビューを行い、この事例が一般的か否かを確認していく中で、個別の要素としてこの事例は全員納得感があるものの、ここからどのように根本原因を整理するかについては悩ましいことであった。また、提言の作成については思い切った解決策を出すこと自体は簡単である一方、様々な制約条件がある中で、それをどのように実行まで落とし込んでいくのかという絵姿が中々描けず悩んでいた。

20

25

本ケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程 M38 期生の金井慎一郎と坂爪 裕教授が共同で作成した。本ケースは、クラス討議の資料として用いるためのもので、経営管理の良否あるいは関係者の判断の適否を示唆するものではない。なお、本ケースは、実在の組織におけるフィールド調査に基づいて執筆されているが、ケース中に登場する名称や固有名詞等は変更されている。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 金井慎一郎、坂爪 裕（2017年4月作成）